

2023年度
金沢学院短期大学
学生の学修状況・学修成果等の
検証報告書

2024年3月31日
金沢学院短期大学

目次

I. アドミッションポリシーの評価	3
1. 評価資料	3
1-1. 一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか（表 1 参照）	3
1-2. 入学時の学修意欲と学修継続の意思	3
1-2-1. 学ぶ意欲のある学生が入学してきたか（表 2-1、2-2 参照）	3
1-2-2. これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか（表 3-1、3-2、3-3 参照）	4
2. 各学科の評価	9
2-1. 現代教養学科	9
2-2. 食物栄養学科	12
2-3. 幼児教育学科	15
3. 短期大学のアドミッションポリシーに関する総合評価	18
II. カリキュラムポリシーの評価	19
1. 評価資料	19
2. 各学科の評価	20
2-1. 現代教養学科	20
2-2. 食物栄養学科	21
2-3. 幼児教育学科	22
3. カリキュラムポリシーに関する総合評価	23
III. ディプロマポリシーの評価	24
1. 評価資料	24
2. 各学科の評価	24
2-1. 現代教養学科	24
2-2. 食物栄養学科	25
2-3. 幼児教育学科	25
3. ディプロマポリシーに関する総合評価	26

I. アドミッションポリシーの評価

1. 評価資料

1-1. 一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか（表 1 参照）

入学直後に実施した学内共通の基礎学力確認テスト（英語・数学）の総合成績の平均と標準偏差を短期大学全体・学科別に算出した。これらの平均について、短期大学平均+1 標準偏差以上を「学内平均を上回る」、短期大学平均±1 標準偏差の範囲を「学内平均並み」、短期大学平均-1 標準偏差未満を「学内平均を下回った」と表記した。また各学科の総合成績の平均を個人の得点と見なし、学内偏差値を算出した。短期大学では、特定の入試区分に人数が偏るため、入試区分別の比較はおこなっていない。

短期大学全体の基礎学力確認テストの受験者は 152 名（前年度比-11 名）であった。

平均点は、英語（35 点満点）が 16.3 点（ $SD=5.68$ ）で前年度比+0.5 点、数学（30 点満点）が 20.8 点（ $SD=4.48$ ）で前年度比+0.6 点、2 科目の総合成績（65 点満点）が 37.1 点（ $SD=8.87$ ）で前年度比+1.1 点であった。いずれもほぼ前年度と同じ点数であった。標準偏差については、すべての数値が前年度よりやや小さくなっている。

1-2. 入学時の学修意欲と学修継続の意思

1-2-1. 学ぶ意欲のある学生が入学してきたか（表 2-1、2-2 参照）

入学直後に実施した新入生向けのアンケート（全 23 項目）から、学修意欲と学修への興味関心を問う 2 つの質問項目を取り出して、選択肢ごとの人数比率を短期大学全体と学科別に算出した。分析対象とした項目は、

項目 2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」

- ①とても持っている ②まあまあ持っている ③あまり持っていない ④持っていない

項目 23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」

- ①一致している ②一致していないが、興味関心に近い分野 ③興味関心とは異なる分野

- ④まだ自分の興味関心がわからない ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない

- ⑥その他

である。

回答者は短期大学全体で 152 名（前年度比-11 名）であった。集計の際、回答ミス等の欠損値を削除して比率を算出したため、それぞれの質問項目の総回答数は一致しない。

学修意欲を尋ねる項目 2 の有効回答数は、短期大学全体で 151 名分（欠損 1）であった。回答の内訳は以下の通りである（表 2-1）。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

- ①とても持っている：71 名（47.0%、-4.5 ポイント）

- ②まあまあ持っている：75 名（49.7%、+1.8 ポイント）

③あまり持っていない：5名（3.3%、+2.7ポイント）

④持っていない：0名（0.0%、増減なし）

選択肢①と選択肢②の合計は96.7%（前年度比-2.7ポイント）であり、短期大学全体で見た場合は、入学後の学修に対して意欲的な学生が入学してきたと言える。

入学した学科の学問分野と興味関心の一致の程度を尋ねる項目23の有効回答数は、短期大学全体で151名分（欠損1）であった。回答の内訳は以下の通りである（表2-2）。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

①一致している：111名（73.5%、-5.5ポイント）

②一致していないが、興味関心に近い分野：14名（9.3%、-0.6ポイント）

③興味関心とは異なる分野：2名（1.3%、+0.7ポイント）

④まだ自分の興味関心がわからない：71名（15.9%、+6.6ポイント）

⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：0名（0.0%、-1.2ポイント）

⑥その他：0名（0.0%、増減なし）

選択肢①と選択肢②の合計は88.9%（前年度比-4.3ポイント）であり、短期大学全体で見た場合は、これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。

1-2-2. これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか（表3-1、3-2、3-3参照）

入学直後に実施した新入生向けのアンケート（全23項目）から、今後の学修や短期大学での大学生活への期待感、大学生活へのイメージの有無を問う3つの質問項目を取り出して、選択肢ごとの人数比率を短期大学全体と学科別に算出した。分析対象とした項目は、

項目4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」

①とても楽しみ ②まあまあ楽しみ ③あまり楽しみではない ④楽しみではない

項目9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」

①ある ②まあまあある ③あまりない ④ない

項目22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」

①とてもそう思う ②どちらかといえばそう思う

③あまりそう思わない ④まったくそう思わない

である。

回答者は短期大学全体で152名（前年度比-11名）であった。集計の際、回答ミス等の欠損値を削除して比率を算出したため、それぞれの質問項目の総回答数は一致しない。

短期大学での大学生活への期待感を尋ねる項目4の有効回答数は、短期大学全体で152名分であった。回答の内訳は以下の通りである（表3-1）。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

①とても楽しみ：45名（29.6%、-2.3ポイント）

②まあまあ楽しみ：94名（61.8%、+1.1ポイント）

③あまり楽しみではない：12名（7.9%、+0.5ポイント）

④楽しみではない：1名（0.7%、+0.7ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は91.4%（前年度比-1.2ポイント）であり、短期大学全体で見た場合は、これからの学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

短期大学での今後の大学生活へのイメージ形成の程度について尋ねる項目9の有効回答数は、短期大学全体で152名分であった。回答の内訳は以下の通りである（表3-2）。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

①ある：10名（6.6%、+0.4ポイント）

②まあまあある：64名（42.1%、-5.4ポイント）

③あまりない：69名（45.4%、+4.7ポイント）

④ない：9名（5.9%、+0.3ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は48.7%（前年度比-5.0ポイント）である。短期大学全体でも学科別でも、最も回答が多くなるのは選択肢②または選択肢③である。今後の大学生活へのイメージは、一部の学生ではできあがっているが、その程度がやや低い学生も半数程度いることがわかる。

この短期大学で学び続けられそうか（入学してよかったと思うか）を尋ねる項目22の有効回答数は、短期大学全体で151名分（欠損1）であった。回答の内訳は以下の通りである（表3-3）。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

①とてもそう思う：69名（45.7%、-0.9ポイント）

②どちらかといえばそう思う：74名（49.0%、-0.1ポイント）

③あまりそう思わない：7名（4.6%、+0.3ポイント）

④まったくそう思わない：1名（0.7%、+0.7ポイント）

選択肢①と選択肢②の合計は94.7%（前年度比-1.0ポイント）であり、短期大学全体で見た場合は、本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

表1 基礎学力確認テストの学科別成績一覧

英語	人数	平均	<i>SD</i>	最高	最低
現代教養学科	51	15.7	5.39	28	6
食物栄養学科	72	17.1	5.84	30	4
幼児教育学科	29	15.5	5.52	35	8
全体	152	16.3	5.68	35	4

数学	人数	平均	<i>SD</i>	最高	最低
現代教養学科	51	19.4	4.09	26	11
食物栄養学科	72	22.2	4.13	29	12
幼児教育学科	29	19.5	4.87	27	11
全体	152	20.8	4.48	29	11

総合（英語+数学）	人数	平均	<i>SD</i>	最高	最低
現代教養学科	51	35.2	7.88	52	19
食物栄養学科	72	39.3	8.88	55	19
幼児教育学科	29	35.0	9.23	62	23
全体	152	37.1	8.87	62	19

表2-1 項目2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」への回答

回答	現代 教養	食物 栄養	幼児 教育	全体
とても持っている	29.4	56.9	53.6	47.0
まあまあ持っている	64.7	41.7	42.9	49.7
あまり持っていない	5.9	1.4	3.6	3.3
持っていない				

表2-2 項目23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」への回答

回答	現代 教養	食物 栄養	幼児 教育	全体
一致している	43.1	85.9	96.6	73.5
一致していないが、 興味関心に近い分野	17.6	7.0		9.3
興味関心とは異なる 分野	3.9			1.3
まだ自分の興味関心 がわからない	35.3	7.0	3.4	15.9
入学した学部・学科・ 専攻の内容がよくわ からない				
その他				

表3-1 項目4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」への回答

回答	現代 教養	食物 栄養	幼児 教育	全体
とても楽しみ	17.6	41.7	20.7	29.6
まあまあ楽しみ	66.7	51.4	79.3	61.8
あまり楽しみではない	13.7	6.9		7.9
楽しみではない	2.0			0.7

表3-2 項目9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」への回答

回答	現代 教養	食物 栄養	幼児 教育	全体
ある		6.9	17.2	6.6
まあまあある	33.3	47.2	44.8	42.1
あまりない	52.9	43.1	37.9	45.4
ない	13.7	2.8		5.9

表3-3 項目22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったですか」への回答

回答	現代 教養	食物 栄養	幼児 教育	全体
とてもそう思う	21.6	53.5	69.0	45.7
どちらかといえばそう思う	64.7	45.1	31.0	49.0
あまりそう思わない	11.8	1.4		4.6
まったくそう思わない	2.0			0.7

2. 各学科の評価

2-1. 現代教養学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テストの結果】

	英語	数学	総合
受験者数	51	51	51
平均	15.7	19.4	35.2
標準偏差	5.39	4.09	7.88
前年度比	-0.7	-0.4	-1.0
短大平均との差	-0.6	-1.3	-1.9

【結果の概要】

- ・英語、数学、総合成績のいずれも短期大学の平均を下回った。前年度比では、ほとんど差がない。
- ・総合成績を学内偏差値に換算すると 47.84 となる。
- ・総合成績が短期大学平均以上または短期大学平均並み（短期大学平均-1 標準偏差以上 = 28.2 点以上）の受験者は学科の 82.4%。短期平均-1 標準偏差未満（受験者全体の下位 15.93% に相当）の受験者の比率は 17.6% で、前年度よりも 2.4 ポイント下がった。

評価

基本的な学力は短期大学の平均並みで、学修に必要な基礎学力は備えていると言える。したがって、基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう入学者が集まったと判断する。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目 2 「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表 2-1）

有効回答数：60 名分（欠損なし）

- ①とても持っている：13 名（29.4%、-13.9 ポイント）
- ②まあまあ持っている：33 名（64.7%、+9.7 ポイント）
- ③あまり持っていない：3 名（5.9%、+4.2 ポイント）
- ④持っていない：0 名（0.0%、増減なし）

- ・選択肢①と選択肢②の合計は 94.1%（前年度比-4.2 ポイント）で。短期大学全体の数値（96.7%）より 2.6 ポイント低い。

- ・学修意欲があるという回答が90%を超えており、学修意欲のある入学者が集まったと言える。

項目23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」(表2-2)

有効回答数：51名分

- ①一致している：22名(43.1%、-26.4ポイント)
- ②一致していないが、興味関心に近い分野：9名(17.6%、+9.1ポイント)
- ③興味関心とは異なる分野：2名(3.9%、+2.2ポイント)
- ④まだ自分の興味関心がわからない：18名(35.3%、+18.4ポイント)
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：0名(0.0%、-3.4ポイント)
- ⑥その他：0名(0.0%、増減なし)

- ・選択肢①と選択肢②の合計は60.8%(前年度比-17.2ポイント)で、短期大学全体の数値(82.8%)より22.0ポイント低く、3学科で唯一90%を下回った。
- ・興味関心があるという回答が60%を下回っており、一定の興味関心を持った入学者が集まったものの、自分の興味関心と異なる／自分の興味関心がわからない等、今後の学修に向けて注意が必要な者が40%弱入学しており、今後の指導に注意する必要がある。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である(増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による)。

項目4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」(表3-1)

有効回答数：51名分

- ①とても楽しみ：9名(17.6%、+4.1ポイント)
- ②まあまあ楽しみ：34名(66.7%、-3.3ポイント)
- ③あまり楽しみではない：7名(13.7%、+5.4ポイント)
- ④楽しみではない：1名(2.0%、+2.0ポイント)

- ・選択肢①と選択肢②の合計は84.3%(前年度比-7.4ポイント)で、短期大学全体の数値(91.4%)より7.1ポイント低い。
- ・80%以上がこれからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った入学者が集まったと言える。

項目9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」(表3-2)

有効回答数：51名分

- ①ある：0名（0.0%、-10.2ポイント）
- ②まあまあある：17名（33.3%、-2.3ポイント）
- ③あまりない：27名（52.9%、+7.1ポイント）
- ④ない：7名（13.7%、+5.2ポイント）

- ・選択肢①と選択肢②の合計は33.3%（前年度比-12.5ポイント）で、短期大学全体の数値（48.7%）よりも15.4ポイント低い。
- ・半数以上の入学者が今後の大学生活へのイメージを持っていないことを示しており、今後の指導に留意する必要がある。

項目22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」（表3-3）

有効回答数：51名分

- ①とてもそう思う：11名（21.6%、-16.7ポイント）
- ②どちらかといえばそう思う：33名（64.7%、+8.0ポイント）
- ③あまりそう思わない：6名（11.8%、+6.8ポイント）
- ④まったくそう思わない：1名（2.0%、+2.0ポイント）

- ・選択肢①と選択肢②の合計は86.3%（前年度比-8.7ポイント）で、短期大学全体の数値（94.7%）よりも8.4ポイント低くなった。
- ・80%以上が本学への入学に納得していると回答しており、これからも学び続けられる入学者が集まったと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。学びへの意志のある者が入学しており、アドミッションポリシーにかなう入学者が集まっていると判断する。ただし、学修意欲の高さや学修継続の意思を示す数値がいずれも短期大学の全体の数値を下回っていることや、今後の学生生活へのイメージ形成の低さが示されていることから、指導に留意する必要がある。

総合評価

以上の分析から、現代教養学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。ただし、指導上の留意点はいくつかある。

2-2. 食物栄養学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テストの結果】

	英語	数学	総合
受験者数	72	72	72
平均	17.1	22.8	44.2
標準偏差	5.84	4.13	8.88
前年度比	+1.2	+1.4	+2.5
短大平均との差	+0.8	+1.4	+2.2

【結果の概要】

- ・英語、数学、綜合成績のいずれも短期大学の平均を上回った。前年度比では、ほとんど差がない。
- ・綜合成績を学内偏差値に換算すると 52.47 となる。
- ・綜合成績が短期大学平均以上または短期大学平均並み（短期大学平均－1 標準偏差以上＝28.2 点以上）の受験者は学科の 87.5%。短期平均－1 標準偏差未満（受験者全体の下位 15.93%に相当）の受験者の比率は 12.5%で、前年度よりも 4.8 ポイント下がった。

評価

基本的な学力は短期大学の平均よりもやや高く、学修に必要な基礎学力は備えていると言える。したがって、基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう入学者が集まったと判断する。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である（増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による）。

項目 2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表 2-1）

有効回答数：72 名分（欠損なし）

- ①とても持っている：41 名（56.9%、+10.7 ポイント）
 - ②まあまあ持っている：30 名（41.7%、-12.1 ポイント）
 - ③あまり持っていない：1 名（1.4%、+1.4 ポイント）
 - ④持っていない：0 名（0.0%、増減なし）
- ・選択肢①と選択肢②の合計は 98.6%（前年度比－1.4 ポイント）で、短期大学全体の数値（96.7%）より 1.9 ポイント高い。
 - ・1 名を除き学修意欲があると回答しており、学修意欲のある入学者が集まったと言える。

項目 23 「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」(表 2-2)

有効回答数：71 名分 (欠損 1)

- ①一致している：61 名 (85.9%、+5.9 ポイント)
- ②一致していないが、興味関心に近い分野：5 名 (7.0%、-6.8 ポイント)
- ③興味関心とは異なる分野：0 名 (0.0%、増減なし)
- ④まだ自分の興味関心がわからない：5 名 (7.0%、+0.8 ポイント)
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：0 名 (0.0%、増減なし)
- ⑥その他：0 名 (0.0%、増減なし)

- ・選択肢①と選択肢②の合計は 93.0% (前年度比-0.8 ポイント) で、短期大学全体の数値 (82.8%) よりも 10.2 ポイント高い。
- ・食物栄養学科は、学科の特性からみて学生の志望と入学した学問分野が一致する傾向が高くなると考えられるが、実際に興味関心があるという回答が 90%を超えており、これからの学修に対して一定の興味関心を持った入学者が集まったと言える。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である (増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による)。

項目 4 「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」(表 3-1)

有効回答数：72 名分

- ①とても楽しみ：30 名 (41.7%、+6.3 ポイント)
- ②まあまあ楽しみ：37 名 (51.4%、-2.4 ポイント)
- ③あまり楽しみではない：5 名 (6.9%、-3.9 ポイント)
- ④楽しみではない：0 名 (0.0%、増減なし)

- ・選択肢①と選択肢②の合計は 93.1% (前年度比+3.7 ポイント) で、短期大学全体の数値 (91.4%) より 1.6 ポイント高くなった。
- ・これからの大学生活を楽しみにしているという回答が 90%を超えており、今後の学修に対して一定の期待を持った入学者が集まったと言える。

項目 9 「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」(表 3-2)

有効回答数：72 名分

- ①ある：5 名 (6.9%、+6.9 ポイント)
- ②まあまあある：34 名 (47.2%、-9.7 ポイント)

③あまりない：31名（43.1%、+6.2ポイント）

④ない：2名（2.8%、-3.4ポイント）

- ・選択肢①と選択肢②の合計は54.2%（前年度比+5.5ポイント）で、短期大学全体の数値（48.7%）よりも5.5ポイント高い。
- ・前年度よりも一定のイメージがないと回答した入学者が増え、卒業時に栄養士資格を取るという具体的な目標があるにもかかわらず、半数以上の入学者が今後の大学生活へのイメージを持っていないことを示している。今後の指導に留意する必要がある。

項目 22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったですか」（表 3-3）

有効回答数：71名分（欠損1）

①とてもそう思う：38名（53.5%、+13.5ポイント）

②どちらかといえばそう思う：32名（45.1%、-11.8ポイント）

③あまりそう思わない：1名（1.4%、-1.7ポイント）

④まったくそう思わない：0名（0.0%、増減なし）

- ・選択肢①と選択肢②の合計は98.6%（前年度比+1.7ポイント）で、短期大学全体の数値（94.7%）よりも3.9ポイント高くなった。
- ・90%以上が本学への入学に納得していると回答しており、これからも学び続けられる入学者が集まったと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。学びへの意志のある者が入学しており、アドミッションポリシーにかなう入学者が集まっていると判断する。ただし、今後の学生生活へのイメージ形成の低さについては、指導に留意する必要がある。

総合評価

以上の分析から、食物栄養学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

2-3. 幼児教育学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テストの結果】

	英語	数学	総合
受験者数	29	29	29
平均	15.5	19.5	35.5
標準偏差	5.52	4.87	9.23
前年度比	+0.9	-0.4	+0.4
短大平均との差	-0.8	-1.2	-2.1

【結果の概要】

- ・英語、数学、総合成績のいずれも短期大学の平均を下回った。前年度比では、ほとんど差がない。
- ・総合成績を学内偏差値に換算すると 47.66 となる。
- ・総合成績が短期大学平均以上または短期大学平均並み（短期大学平均-1 標準偏差以上 = 28.2 点以上）の受験者は学科の 69.0%。短期平均-1 標準偏差未満（受験者全体の下位 15.93%に相当）の受験者の比率は 31.0%で、前年度よりも 7.3 ポイント上がった（前年度より学生数が減少しており、分母が 30 未満と小さくなっているため、比率が大きく変化しやすい状態であることに注意）。

評価

基本的な学力が短期大学の平均よりも低いですが、学修に必要な基礎学力は備えていると考えられ、基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう入学者が集まったと判断する。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

項目 2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表 2-1）

有効回答数：28 名分（欠損 1）

- ①とても持っている：15 名（53.6%、-20.1 ポイント）
- ②まあまあ持っている：22 名（42.9%、-16.6 ポイント）
- ③あまり持っていない：1 名（3.6%、+3.6 ポイント）
- ④持っていない：0 名（0.0%、増減なし）

- ・選択肢①と選択肢②の合計は 96.4%（前年度比-1.4 ポイント）に達し、短期大学全体の数値（96.7%）より 0.3 ポイント低くなった。
- ・学修意欲があるという回答が 90%を超えており、学修意欲のある入学者が集まったと言える。

項目 23 「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」(表 2-2)

有効回答数：29 名分

- ①一致している：28 名 (96.6%、+4.5 ポイント)
- ②一致していないが、興味関心に近い分野：0 名 (0.0%、-5.3 ポイント)
- ③興味関心とは異なる分野：0 名 (0.0%、増減なし)
- ④まだ自分の興味関心がわからない：1 名 (3.4%、+0.8 ポイント)
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：0 名 (0.0%、増減なし)
- ⑥その他：0 名 (0.0%、増減なし)

- ・選択肢①と選択肢②の合計は 96.6% (前年度比-0.8 ポイント) で、短期大学全体の数値 (82.8%) よりも 13.8 ポイント高く、3 学科の中で最も高い値となった。
- ・幼児教育学科は、学科の特性からみて学生の志望と入学した学問分野が一致する傾向が高くなると考えられるが、実際に興味関心と一致しているという回答が 90%を超えており、これからの学修に対して一定の興味関心を持った入学者が集まったと言える。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

アンケートに対する回答について、各項目の人数と比率を示した。末尾の数値は前年度比の増減である (増減の合計が一致しない場合は、小数点以下の丸めの影響による)。

項目 4 「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」(表 3-1)

有効回答数：29 名分

- ①とても楽しみ：6 名 (20.7%、-21.4 ポイント)
- ②まあまあ楽しみ：23 名 (79.3%、+21.4 ポイント)
- ③あまり楽しみではない：0 名 (0.0%、増減なし)
- ④楽しみではない：0 名 (0.0%、増減なし)

- ・選択肢①と選択肢②の合計は 100%に達し (前年度比で増減なし)、短期大学全体の数値 (91.4%) より 8.6 ポイント高く、3 学科の中で最も高い値となった。
- ・全員が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った入学者が集まったと言える。

項目 9 「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」(表 3-2)

有効回答数：29 名分

- ①ある：5 名 (17.2%、+6.7 ポイント)
- ②まあまあある：13 名 (44.8%、-5.2 ポイント)

③あまりない：11名（37.9%、-2.3ポイント）

④ない：0名（0.0%、増減なし）

- ・選択肢①と選択肢②の合計は62.1%（前年度比+1.6ポイント）で、短期大学全体の数値（48.7%）よりも13.4ポイント高く、3学科の中で最も高い値となった。
- ・前年度よりも一定のイメージがないと回答した入学者が増え、卒業時に保育士等の資格を取るという具体的な目標があるにもかかわらず、半数近くの入学者が今後の大学生活へのイメージを持っていないことを示している。今後の指導に留意する必要がある。

項目 22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったですか」（表 3-3）

有効回答数：29名分

①とてもそう思う：20名（69.0%、-2.1ポイント）

②どちらかといえばそう思う：9名（31.0%、+7.3ポイント）

③あまりそう思わない：0名（0.0%、-5.3ポイント）

④まったくそう思わない：0名（0.0%、増減なし）

- ・選択肢①と選択肢②の合計は100%に達し（前年度比+5.3ポイント）、短期大学全体の数値（94.7%）より8.6ポイント高く、3学科の中で最も高い値となった。
- ・全員が、本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる入学者が集まったと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。学びへの意志のある者が入学しており、アドミッションポリシーにかなう入学者が集まっていると判断する。ただし、今後の学生生活へのイメージ形成の低さについては、指導に留意する必要がある。

総合評価

以上の分析から、幼児教育学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

3. 短期大学のアドミッションポリシーに関する総合評価

以上の各学科の評価からは、アドミッションポリシーにかなわない者が入学しているとは言えない。したがって、現在のアドミッションポリシーには不適切な点はないと判断される。ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない学生募集はおこなっていないと言える。

一方、学生生活のイメージ形成については、入学者全体の約 4 割がイメージを持っていないという結果になっている。食物栄養学科と幼児教育学科は、卒業時に資格取得を目指す学科であり、これらの学科においても大学生活へのイメージ形成が低いことを踏まえ、今後の指導に留意する必要がある。

II. カリキュラムポリシーの評価

1. 評価資料

2021 年度に開講されたすべての科目について、成績評価の内訳をすべて整理した。これらの科目を教育課程表に基づいて科目区分ごとに分類し、成績評価の内訳の比率（秀・優・良・可）とこれらを合わせた合格率（単位修得率）を算出した。さらにこれらの科目の「放棄」の人数を基に、履修放棄率を算出した。履修取消は GPA の算出に影響しないこと、および期首に誤って履修単位数の上限を超えて登録したために取り消した学生が含まれていることから、分析においては「放棄」のみを対象とした。

2. 各学科の評価

2-1. 現代教養学科

①評価の対象とする科目

現代教養学科の科目群は、総合科目、基盤科目、コース科目となっている。各区分の必修科目数が少ないため、必修科目は一括して計算した。その結果、必修科目が計 10 科目、選択科目が総合科目で 4 科目、基盤科目で選択 22 科目、コース科目で選択 54 科目、卒業研究相当科目が 1 科目となり、合計 91 科目となった。

②合格率と履修放棄率

必修科目 10 科目の合格率は、99.8%であった。選択科目の合格率は、全科目の平均が 96.1%であった。科目区分ごとに見ると、総合科目 99.3%（前年度比-0.7 ポイント）、基盤科目 94.7%（前年度比+1.3 ポイント）、コース科目 94.3%（前年度比 4.0 ポイント）であった。

合格率 100%であった科目は、必修科目では 10 科目中 9 科目（90.0%）であった。残る 1 科目は履修放棄の 1 名を除き、全員合格（合格率 98.4%）であった。選択科目では、総合科目 3 科目（75.0%）、基盤科目 7 科目（31.8%）、コース科目 36 科目（66.7%）となり、合計 91 科目中 47 科目（51.6%）が合格率 100%であった。前年度の分析で対象とした科目のうち合格率 100%であった科目は 61.5%であったので、9.9 ポイント減少している。

履修放棄率の平均については、必修科目は 0.2%であった。選択科目の履修放棄率の平均は、総合科目 0.7%、基盤科目 3.2%、コース科目 4.1%で、選択科目全体で 2.7%（前年度比 1.2 ポイント）であった。履修放棄率が 100%になっている科目がコース科目に 1 科目あるが、これは履修者 1 名の実技科目で、この 1 名が放棄したためである。その他履修放棄率が 20%以上となる科目はなかった。選択科目 80 科目のうち 73.6%に相当する 59 科目が、履修放棄率 0.0%である（前年度比-9.3 ポイント）。

評価内訳については、対象とした全科目を通して「秀」が 14.1%（前年度比-4.7 ポイント）、「優」が 22.2%（前年度比-9.8 ポイント）、「良」が 25.9%（前年度比+6.6 ポイント）、「可」が 35.2%（前年度比+10.3 ポイント）であった。評価が低くなるにつれて比率が高くなる傾向が見られ、「秀」と「優」の合計は全体で 36.3%（前年度比-7.2%）であった。

合格率が 70%に満たなかった科目は上記の履修放棄率 100%の 1 科目のみであり、学生は順調に学んでいると言える。

総合評価

本学科では、学年進行に伴って継続して学修に取り組んでいることがわかる。これより、評価対象としたカリキュラムに、学修計画の不備はないと判断する。

2-2. 食物栄養学科

①評価の対象とする科目

教養必修 2 科目、専門必修 21 科目、専門選択 18 科目に分け、合格率と履修放棄率を算出した。栄養教諭Ⅱ種の免許状取得に関わる教職科目は、分析から除外した。

②合格率と履修放棄率

教養必修科目は、2 科目とも合格率 100.0%であった。これら 2 科目はいずれもキャリア教育科目である。専門科目の合格率の平均は、必修科目で 99.6%（前年度比-0.2 ポイント）、選択科目で 97.4%（前年度比-1.4 ポイント）となり、41 科目の合格率の平均は 98.6%（前年度比-0.7 ポイント）であった。合格率が 100%であった科目は、教養必修科目 2 科目、専門必修科目 21 科目のうち 17 科目（81.0%）、専門選択科目 18 科目のうち 10 科目（55.6%）であった。対象とした全 41 科目のうち、29 科目（70.7%）が合格率 100%であった。前年度の合格率 100%の科目は、対象とした全科目の 92.7%であったので、前年度比で 22.0 ポイント低くなった。必修科目のみを対象とすると、教養科目と専門科目合わせて 23 科目のうち 19 科目（82.6%）が合格率 100%であった。対象とした 41 科目中 37 科目（90.2%）が合格率 95%以上である（前年度比-5.1 ポイント）。

履修放棄率については、教養必修科目と専門必修科目では、履修放棄があった科目はなかった。専門選択科目では 2.0%（前年度比+0.9 ポイント）であった。最も履修放棄率が高かった科目で 11.4%であった。この科目では放棄した学生以外は全員合格しているが、合格率も最も低く 88.6%（実習科目）である。また、この科目は前年度も最も合格率が低く、最も履修放棄率が高い科目であった。

評価内訳については、対象とした全科目を通して「秀」が 13.3%（前年度比+0.1 ポイント）、「優」が 30.6%（前年度比-4.3 ポイント）、「良」が 29.4%（前年度比-1.3 ポイント）、「可」が 25.5%（前年度比+4.8 ポイント）であった。「秀」がやや低い値となっている。「秀」と「優」の合計は全体で 43.9%であった。「可」の比率が 45%を超える科目は 3 科目（専門必修 1 科目、専門選択 2 科目）であった。

評価がやや低めに偏る科目が複数見られるものの、ほぼすべての科目で合格率は 90%を超えている。全科目で履修放棄は 14 名で、全履修者に占める割合は 0.7%に留まる。学生は順調に学んでいると言える。

総合評価

本学科では、学年進行に伴って継続して学修に取り組んでいることがわかる。卒業時の栄養士資格取得に向けて、学生は順調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。成績評価が低い方へ集中している科目や履修放棄率が 10%を超えた科目については、今後学生の状況等を精査する。

2-3. 幼児教育学科

①評価の対象とする科目

教育必修 3 科目、専門必修 44 科目、専門選択 10 科目、卒業研究 1 科目に分けて、合格率と履修放棄率を産出した。

②合格率と履修放棄率

合格率の平均は、教育必修科目 98.3%（前年度比-1.7 ポイント）、専門必修科目 97.7%（前年度比-1.5 ポイント）、専門選択科目 96.3%（前年度比-1.2 ポイント）、卒業研究が 97.7%（前年度比-2.3 ポイント）であった。全体の平均は、97.5%（前年度比-1.5 ポイント）であった。合格率 100%の科目は、対象とした 58 科目のうち 19 科目（教育必修 1 科目、専門必修 15 科目、専門選択 3 科目）で、比率は 32.6%（前年度比-41.3 ポイント）であった。前年度比でほぼ半減している。ただし、合格率 95%以上の科目は 52 科目（89.7%）に達しており、合格率 90%未満の科目は 2 科目しかない。

履修放棄率の平均は、教育必修科目で 1.7%（前年度比+1.7 ポイント）、専門必修科目で 1.2%（前年度比+0.9 ポイント）、専門選択科目が 3.3%（前年度比+0.8 ポイント）、卒業研究が 2.3%（前年度比+2.3 ポイント）であった。専門科目全体の平均は 1.6%（前年度比+0.9 ポイント）で、履修放棄があったのは 52 科目中 28 科目であった。このうち教育実習関連 3 科目以外の 25 科目では履修放棄は 1 名のみである。

評価内訳については、対象とした全科目を通して「秀」は 10.8%（前年度比-2.4 ポイント）、「優」は 26.5%（前年度比-6.7 ポイント）、「良」は 33.7%（前年度比-0.3 ポイント）、「可」は 26.3%（前年度比+7.9 ポイント）となり、「秀」と「優」の合計は全体で 37.3%（前年度比-9.1 ポイント）であった。「優」と「良」の比率が高く、合計で 60.2%であった。「可」の比率が 45%を超える科目は 9 科目であった。

合格率 95%以上の科目は 89.7%に達している。前年度に比べて履修放棄がある科目が増加したが、そのほとんどが履修放棄 1 名のみであった。学生は順調に学んでいると言える。

総合評価

本学科では、学年進行に伴って継続して学修に取り組んでいることがわかる。保育士・幼稚園教諭 2 種の資格取得に向けて、学生は順調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。

3. カリキュラムポリシーに関する総合評価

短大においては、カリキュラム（教育課程）は、カリキュラムポリシーに沿って編成されている。また、食物栄養学科および幼児教育学科においては、卒業時に資格（栄養士、保育士・幼稚園教諭2種）を取得することを前提として、カリキュラムが編成されている。このカリキュラム編成に何らかの不備や瑕疵があるならば、学生の学びは順調に進まないことが予測される。また、特定の科目に低評価が集中する、あるいは履修放棄率が極端に高くなるなどの結果が見られた場合、段階を踏んで学ぶように設計されたカリキュラムの中に、つまづきを誘発する要素（学修段階にそぐわない内容や難易度）が潜在的もしくは顕在的に存在していると考えられる。今回の各学科の教育成果の評価においては、このような問題点は見当たらなかった。

したがって、カリキュラムの改訂ならびにカリキュラムポリシーの見直しが必要になるような状況は存在せず、ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない教育課程にはなっていないと言える。ただし、一部の学科に見られた成績の低評価への偏りについては、今後の精査を必要とする。

III. ディプロマポリシーの評価

1. 評価資料

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

各学科の科目から、卒業研究に相当する科目を選び、その合格率、履修放棄率、各成績の内訳を算出した。

②卒業率（2年での学修達成率）

2020年度に入学し、2021年度に2年間で教育課程を修了して卒業した学生の数を、その学年が入学した当初の入学者数に対する割合で示した。

③就職内定率

各学科の就職希望者に対する内定者数の割合で示した。幼児教育学科においては、保育士・幼稚園関係の就職率も示した。

2. 各学科の評価

2-1. 現代教養学科

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

現代教養学科では、「基礎ゼミⅢ」が卒業研究に相当する。51名が履修し、合格率は100.0%であった（前年度比増減なし）。成績評価は、「秀」が11.6%（前年度比+2.1ポイント）、「優」が21.6%（前年度比+8.0ポイント）、「良」が33.3%（前年度比-1.6ポイント）、「可」が31.4%（前年度比-8.1ポイント）である。「秀」と「優」を合わせて35.3%（前年度比+9.7ポイント）。前年度は「良」と「可」の合計が全体の74.4%を占めていたが、今年度は64.7%となっており、成績が下方に集中する傾向はやや改善されている。

②卒業率（2年での学修達成率）

2021年4月に入学した学生は52名であった。このうち96.2%に相当する52名が、2年間で教育課程を修了し2023年3月に卒業した（前年度比+2.7ポイント）

③就職内定率

就職希望者44名の全員が内定を得た（内定率100.0%、前年度比増減なし）。4年制大学等への編入・進学は6名であった。

総合評価

卒業研究のテーマは、入学してから「総合科目」、「基盤科目」、「コース科目」を学んだ上で、各自が興味を持った内容である。2年間の学修成果として十分であるといえる。以上①から③までの評価に基づき、2022年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

2-2. 食物栄養学科

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

該当する科目なし。

②卒業率（2年での学修達成率）

2021年4月に入学した学生は46名であった。このうち87.0%に相当する40名が、2年間で教育課程を修了し2023年3月に卒業した（前年度比-11.3ポイント）。

③就職内定率

就職希望者31名の全員が内定を得た（内定率100.0%、前年度比増減なし）。4年制大学等への編入・進学は6名であった。

総合評価

以上②、③の評価に基づき、2022年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

2-3. 幼児教育学科

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

幼児教育学科の「卒業研究」は30名が履修し、合格率は100%（前年度と同じ）であった。成績評価は、「秀」が13.3%（前年度比-6.3ポイント）、「優」が53.3%（前年度比-37.0ポイント）、「良」が23.3%（前年度比+16.2ポイント）、「可」が10.0%（前年度比+24.9ポイント）である。「秀」と「優」を合わせて23.3%となり、前年度の66.7%から43.4ポイント低下した。評価が全体に低い方へ偏る結果となった。

②卒業率（2年での学修達成率）

2021年4月に入学した学生は48名であった。このうち85.4%に相当する41名が、2年間で教育課程を修了し2023年3月に卒業した（前年度比+2.1ポイント）。

③就職内定率

就職希望者41名の全員が内定を得た（内定率100.0%、前年度比増減なし）。保育士・幼稚園関係への就職は、公立保育士2名（内1名は嘱託）、認定こども園24名（幼稚園型施設1名、幼保連携型施設18名、保育所型施設5名）、保育所6名で、合計32名（就職希望者の78.0%）であった。

総合評価

以上①から③までの評価に基づき、2022年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

3. ディプロマポリシーに関する総合評価

以上の評価により、短大においては、現在のディプロマポリシーに実情に合わない不適切な点はないと判断される。ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない学生には学位を授与していないといえる。